

MATERIALS NEWS

岐阜県窯業原料協同組合情報 No.19 29年3月号

発行 岐阜県窯業原料協同組合 多治見市笠原町 1987 番地の 3 TEL 0572(43)2501 FAX 0572(43)5397

三月号の事業所の紹介は、第一委員会(陶磁器関係)から丸福窯業原料(株)、第二委員会(タイル関係)から日陶産業(株)にご寄稿いただきました。

〈第一委員会・陶磁器関係〉

耐火物の製造に携わって

丸福窯業原料(株)

専務取締役 福岡朝良

丸福窯業原料(株)は、土岐市駄知町の曾木よりの肥田川沿いにあります。元々は祖父が川をえん堤でせき止め、水車四台にて一トン程のトロミル十二台くらいを回し、陶器の土を作っていました。

昭和三二年に父はその一角で個人的に独立し、トロミルを使い陶器用の釉薬作りを始めました。

その後、伯父がトンネル窯を造り、約一四〇〇度の温度で焼成する合成コージェライトの製造、販売を始めたことにより、その調査、製土を作るようになりまし。合成コージェライトは熱膨張が低く、耐熱衝撃性に優れるもので主にタイル用トンネル窯のサヤや、陶器のエンゴロ等の原料として使われていました。

昭和四三年に法人化をしましたが、法人化の数年前からロータリーキルンを作り、約一八〇〇度の温度で焼成する合成ムライトの製造を始め、その調査、製土を作るようになりま

〈第二委員会・タイル関係〉

必要とされる企業であるために

日陶産業(株)

代表取締役社長 岩間健太郎

弊社は、昭和二一年に陶磁器の原料商としてスタートし、昨年で七〇周年を迎えることが出来ました。これもひとえに皆様方のお陰であると、先ず以って、感謝申し上げます。発足当時、顔料・ジルコン乳白剤は米国製が中心であり、その輸入販売及び、国内多品種の原料販売が主の業務でした。その後、国産品の開発とともに、販売商品の軸を国産着色剤に移して、タイル・瓦・食器・衛生陶器など、焼成という工程が入る業界を中心に販売を続けて参りました。

一方で、輸入原料の紹介にも力を注ぎ、溶融剤としてトルコ産のコレマナイトやウレキサイトをグラスファイバー・フリット原料として、またアフリカ・ジンバブエ産のペタライトでは、耐熱調理器の品質向上に寄与することが出来ました。現在の取扱商品は無機・有機にかかわらず、非常に多岐に渡っております。弊社では、過去より、安定供給・品質向上に努め、ステークホルダーの皆様にご貢献することをモットーに活動しております。

昨今では、国内・国外共に情勢が目まぐるしく変化しており、その対応を迅速

に行うことが求められております。特に安定供給という点では、原材料の生産地が世界的に広がっていることや、効率化・業界の縮小などを背景に商品の廃盤や統合が増えていることなど、その重要性があらためて問われているように感じております。

日頃の活動のなかで、お客様が困りの問題を解決できる商品紹介、新規ご提案なども勿論ですが、現在供給させて頂いている商品を、変わらず今後もご提供し続けるという基本的なことを、しっかりと果たせるよう努めて参ります。

弊社では、タイル・食器の一大生産地である多治見に、会社設立初期より営業所を開設し、以来今日に至るまで、地域の皆様に大変御世話になつて参りました。非常に難しい時代・環境ではございますが、今後自分達の役割を果たし、皆様にお声を掛けて頂けるよう鋭意努めて参ります。今後とも何卒 宜しくお願い申し上げます。

◆◆◆ 岐阜県窯業原料協同組合が行っている業務

:その3 『岐阜県火災共済(協)代理所』を行っております ◆◆◆

岐阜県では、組合員の皆様の大切な財産を火災等の災害からお守りするための各種保険の代理業務を行っております。取り扱いの保険は、火災共済・医療総合保障共済・傷害総合保障共済・自動車事故費用共済です。

総合火災なら9種類の事故からあなたを守ります。さらに、自宅が火元となった時、ご近所のための類焼見舞金補償特約、地震見舞金補償特約など特約も充実しております。お見積もり等詳細については、事務局までお問い合わせください。 問い合わせ 岐阜県窯業原料協同組合(岐阜原) 電話 0572(43)2501

未利用資源の窯業原料化に向けた共同研究

「青さば」を窯業原料としての研究成果

窯業原料の枯渇問題対策の一つとして未利用資源「青さば」の窯業原料化に向けた共同研究が中部経済産業局の支援のもと、国立研究開発法人産業技術総合研究所を中心として窯業原料関係事業者の参加のもと共同研究が行われておりますが第五・六回の概要について報告いたします。

第五回共同研究会が十月二五日に開催、第六回共同研究会が十二月十五日に開催され、岐阜原からは、第一委員会、第二委員会委員長がそれぞれ参加しました。第五回については、乾式磁力選鉱及び粘土

質風化花崗岩からの脱鉄の検討状況の報告があり、続いて中堅・中小企業への橋渡し研究開発促進事業二八年度補正分、二九年度新規分について検討がなされ、二九年度分について取り組みを進めることとなりました。

第六回については、丸藤・陶祖・県営鉱山付近の青さばの試維コアの保存状況、青さばの厚さ、青さばの埋蔵量の調査を行った報告がありました。一般に一ヘクタール当たり三万m³、最大一ヘクタール当たり十五万m³、合計三百万m³の埋蔵量が期待されることでした。また、青さばの平均粒径や粒度ごとに分けた状態での磁選、粘土鉱物と雲母の挙動について報告がありました。

岐阜原二月期研修会を終えて

労働安全衛生とは…朝会社へ来た時の状態で仕事を終えて帰ること

岐阜県窯業原料協同組合の研修会として、毎年六月と二月に開催をしておりますが、本年は、労働安全衛生法の改正に伴い、一定の危険有害性のある化学物質(六四〇物質)については、従業員の健康障害を防止するための対策を講ずるところとなり、リスクアセスメント並びにラベルの表示が義務付けられました。もう既に実施の準備をしてみえる事業所もあることと思われましたが、改正された制度を確かなものとして運用していくための内容となりました。

六月期においては、労働安全衛生法の改正の内容を主とし、それに伴い職場におけるリスクアセスメント、製品提供時に容器などへ添付するラベル表示等の義務化について、中央労働災害防止協会中部安全衛生サービスセンターから講師を派遣いただき実施しました。

二月期の研修は、六月期に引き続き、労働安全衛生法の改正に伴う内容で、労働災害を未然に防止する活動の推進として、同中部安全衛生サービスセンターの安全管理士から、工場内の事故防止等各事業所が常に心がけたい内容について研修を受けました。「安全衛生の管理の欠陥」、作業に対する「知識不足、技量不足」が事故を発生させる要因になるなど具体的な内容で、各事業所でも取り組むことのできる内容が幾つかあったことと思われれます。合わせて会員二七の事業所、五四名の参加。岐陶工連の会員十七の事業所からも参加をいただきました。

この研修会を開催したことにより各事業所単位で安全衛生サポート事業へ個別支援事業を受けることができるようになり、既に四事業所様がこの制度を活用し、さらに職場内の安全衛生を進めてみえます。申し込み、ご質問等がありましたら岐阜原へお問い合わせください。

※事業主の皆さんへ確認ください

粉じん作業現場をお持ちの事業所
粉じん作業に従事する労働者は、じん肺健康診断を受診。作業環境測定等の実施。

などが必要となります。詳細は岐阜原へ問合せください。